

第 39 回全国健康福祉祭東京大会 基本構想策定委員会

(第 3 回) 議事概要

1 日時

令和 8 (2026) 年 2 月 9 日 (月曜日) 15 時～16 時 10 分

2 場所

東京都庁第一本庁舎 25 階 109 会議室

3 出席者

川田座長、角田委員、高橋委員、黒羽委員、河野オブザーバー、
荒木アドバイザー、藤原アドバイザー

4 議事

事務局より、会議資料に基づき各議題の説明を行い、検討事項毎に意見交換を行った。

委員等からの主な意見は以下のとおり

(1) 検討事項① 大会テーマ・マスコットキャラクター

- 大会テーマの決定にあたり、東京アプリでの投票など、個人が主体性を持って決められる仕組みは良いと思う。
- 幅広い年代の投票を促すため、関係団体を通じた周知や子供関係の所管部署と連携して広報発信を行うと効果的かもしれない。
- 投票するに当たって、過去の大会テーマを参照できるようにした方が良いと思う。

(2) 検討事項② 交流大会実施種目・実施自治体

- 東京大会の基本構想で多世代交流を目標に掲げているが、交流大会は高齢者が主たる参加者であり、そのギャップをどう埋めていくが重要
- e スポーツは介護予防や交流促進の観点も含め、高齢者への普及が進んできており、世代間の交流にも効果的だと思う。東京大会ではどの種目（ソフト）を採用するか、競技人口や各世代における普及の程度等も踏まえながら検討した方が良い。ねりんピックをきっかけに e スポーツの裾野が広がると良い。
- 交流大会の種目の中には、必ずしも競技性がないものや競技人口が多くない種目もあるように思われる。種目によって参加基準を検討することで、世代間交流や競技の普及にもつながるのではないかな。
- 厚労省の要綱では、「主たる参加者は 60 歳以上」となっているとのことだが、門戸を広げることが大会の知名度向上にもつながっていくと思う。

- オープン参加を認めるとか、世代を超えたチームを結成するのも良い。厚労省ともしっかりと議論しながら参加基準について検討して欲しい。
- 若い世代にも参加してもらう場合、新たに枠を作る必要がある。対象を都民のみとするか、関東圏まで広げるかなど検討が必要
- 種目によっては多世代交流を進めることが難しいものもあると思う。区市町村任せにすると既存の枠組みの中で考えたり、対応にバラつきが出てしまう可能性があるため、都が方針を示した方が良いかもしれない。

(3) 検討事項③ ねんりんピック東京大会の準備運営体制について

- 大会全体をコーディネートする組織がなく、それぞれの事業において、どの組織が何をやるのかが整理されていない。大会はスポーツだけでなく文化のイベントなど多岐に渡るので、関係機関ともしっかりと連携しながら準備を進めて欲しい。
- 東京大会の目標として企業等の参画が挙げられていると思うが、例えば商工会議所など、経済界の団体に準備運営組織に入ってもらっても良い。
- 例えば、学生団体等が準備段階から参加すれば、学生にとっては企業や地域との交流の機会となり、大会に若い世代の意見を反映することもできると思う。
- 東京 2020 大会や世界陸上、デフリンピック等で活躍されたボランティアの方にねんりんピックに参画して頂ければ、レガシーの活用になる。

これらの意見に対し、事務局から「検討を行った上で今後の大会準備に反映させていく」ことが確認された。また、年度末に「基本構想」を公表するに当たり、第4回基本構想委員会を書面にて開催することが確認された。

以上